

平成30年度第4回社会教育委員会議抄録

日 時： 平成30年8月21日（火） 13時30分～15時30分

場 所： 西宮市役所 東館7階 教育委員会分室

〔出席委員〕

福 田 富 士 枝	川 本 輝 子
田 中 理	森 郁 子
福 田 洋 子	伊 藤 篤
西 本 望	佐 藤 智 子
立 田 慶 裕	

〔行政出席者〕

上田 社会教育部長	佐々木 学校教育部長
石飛 社会教育部参事	中島 社会教育課長
中尾 放課後事業課長	井上 地域学習推進課長
北 中央図書館長	中西 北口図書館長
牧山 青少年育成課長	藤網 生涯学習推進課長
酒井 社会教育課係長	坂井 社会教育課係長
谷池 社会教育課主事	石塚 社会教育課主事
木村 社会教育課嘱託職員	

署名委員

\_\_\_\_\_ (印)

\_\_\_\_\_ (印)

## 平成30年度 第4回社会教育委員会議抄録

議長 定刻になりましたので、ただ今より平成30年度第4回社会教育委員会議を開会させていただきます。

議長 本日の出席者は9名です。

議長 本日の傍聴はありますか。

事務局 ございませぬ。

議長 それでは議事の次第に従いまして協議に移ります。

協議第1号「テーマについて審議」です。

本日は、意見確認書の設問1・設問2で出た意見のおさらいと、設問3についての意見交換の後、3班に分かれてグループワークを行いたいと思います。

前回の会議では、「意見確認書 資料1」より 設問1の「人生100年時代は、どのような社会が想定されると思いますか」と、設問2の「『人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学び』について、西宮市にはどのような課題があると思いますか」について、いろいろとご意見をいただきました。

参考までに、「資料2」の3枚目に西宮市の将来人口推計のグラフをつけております。上の「図5」は西宮市の将来人口推計で、総人口です。

下の「表1」は、年齢を3区分にしております。年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）の割合が減少する一方、65歳以上の高齢者人口は増加し、特に平成42年以降は高齢化率が急速に上昇すると予測されています。

「資料2」をご覧ください。意見確認書で記入していただいたご意見、前回までの会議で出ましたご意見等を、「これまでの意見の整理」としてまとめております。（簡単に読上げ）

ここまでで、何かご意見等はございますか。

委員 （意見なし）

議長 さきほどの「これまでの意見の整理」の教育長の言葉にもありましたように、リカレント教育のアンケート調査によると、「80%の人が、今後定年退職後に学びたいと思っている」との回答があったそうです。

また、先日、佐藤委員が文部科学省主催のOECD Japan セミナーにご出席され、その中でリカレント教育政策についてのセッションがあったそうです。このことについて、ご報告をお願いいたします。「資料3」をご覧ください。

委員 先日、文部科学省とOECD主催の「第20回OECD Japan セミナー OECDからみる日本の教育政策」に出席いたしました。セミナーでは、シュライヒャーOECD教育・スキル局長、及び鈴木寛文部科学大臣補佐官からの講演のほか、テーマ別セッションでは、①2030年に求められる資質能力、②学校と地域の連携、③学び直し・リカレント教育の3つのテーマで話されました。

世界と比較すると、日本の、特に大人の学習活動への参加が低いというデータがありました。理由としては、仕事が忙しく余裕がないことや、どのようなコースが自分の目指すキャリアに適切なのかわからないといったことが挙げられました。

議長 ありがとうございます。ご質問等はございますか。

副議長 テーマではどのようなことが話されましたか。

委員 学校と地域の連携として、コミュニティスクールの話もありました。

議長 ありがとうございます。それでは、「資料1の意見確認書のまとめ」の続きに移りたいと思います。事務局よりお願いします。

事務局 「資料1 意見確認書のまとめ」の4ページをご覧ください。設問3の「『人生100年時代を見据えた社会の持続的発展のための学びの推進』をテーマに審議をしていく場合、社会教育委員としてどのような観点からこのテーマにアプローチができると思われますか。また、どういう調査研究が必要・可能だと思われますか」についても、様々なご意見をいただいております。

大まかにまとめましたものを、5ページの最後に太字で記載しております。

- ・地域の拠点としての公民館のあり方調査（実態把握・課題抽出）
  - ・地域内の各組織のネットワーク状況調査（実態把握・課題抽出）
  - ・住民の学習状況調査（どのような層が、どのような手段・手法で学んでいるかの実態把握・課題抽出）
  - ・高齢の学習者を対象とした集団インタビューを実施する
- などのご意見を頂戴しております。

議長 このことについて、何か補足等、ご意見はございますか。

副議長 公民館の方向性を把握しどのように学習に利用するかを考えていく必要があると思います。先日も、尼崎市と芦屋市の状況をお伺いしましたら、それぞれ状況が違いました。また、NPOや企業では、西宮の中でいろいろな団体のネットワークをつくりあげていると思いますし、学習に関わる機関のつながりについて調査をしてみてもと思います。

そのほか、成人学習者 スマホやパソコンを使って学習している人も結構います。そういった、ネット上での調査を実施してみるのはいかがでしょうか。過去に、100万円ほどお金をかけて、全国の調査をしたことがあります。ネットを利用しない人の調査方法をどうするかが課題となりました。学生のアウトリーチ、参加できない人をどう捉えたらよいかということです。

事務局 これまで、そのような大きな調査までは行っておらず、各小中学校長や青少年愛護協議会長へのアンケート調査のような形で行ってきました。また、調査に係る費用を予算計上しておりません。

市政モニター調査や市民意識調査などを利用して、調査をすることは可能だと思いますが、今回申請しても実施は次年度になると思います。

議長 大きなお金をかけての調査は難しいですね。

副議長 市政モニター調査などは、どれくらいの回答になりますか。

事務局 8,000人ほどへ回答依頼し、3,000人ほどから回答を得ています。

副議長 エントリーしてみてもどうでしょうか。

事務局 公民館利用者の何名かにアンケートをとることは可能かもしれません。

議長 ありがとうございます。他に何かございますか。

事務局 10月の社会教育委員会議は、北口図書館で行う予定です。同じ建物に「大学交流センター」があり、所管する「大学連携課」がありますので、大学との連携について、直接「大学連携課」にヒアリングする機会を設けたいと思います。

議長 今後、調査研究をしていくにあたり、最終的にどのように行動に移すかをいうことを考えながら、調査をしていきたいと思います。

議長 これからグループ討議で話をしていくうえで、副議長が「資料4」の「セカンドライフマップ」の執筆に携わっておられるようなので、簡単にご説明をお願いします。

副議長 文部科学省と教職員生涯福祉財団が共同して、教職員向けの「ライフマップ」というものを作りました。ただ、これは退職後の世代が対象となっており、退職準備対象者向けの「セカンドライフマップ」として、個人のライフプランをつくる教科書のようなものも別に作成しました。また、この作成には、生命保険会社も

関わっているということが分かりました。

西宮市にも、このように退職の準備ガイドをつくるような部署があってもよいのではないのでしょうか。市民の人が考えていることについて、何かガイドになることを市全体で作れないのでしょうか。

退職した人の中には、地域との関わりに参加したい人と離脱したい人とに分かれるようですが、できれば参加する方が長生きできるそうです。特に男性がそうです。女性は友達がいることから、参加しやすいようです。

議長 ありがとうございます。次に、8月4日・5日に開催されました、尼崎のサマーセミナーに、中村委員、川本委員、福田洋子委員と事務局が参加されました。市民が取り組む学びや活動のプラットフォームとなる、まちづくりの事例です。参加されました委員の中から代表して、福田洋子委員より、簡単にご感想をお願いします。

委員 サマーセミナーでは朝礼の後、校歌を歌い3つの授業に出席いたしました。1時間目は「キャリア関係」、2時間目は「人権教育」でワークショップ、3時間目は「神様仏様全員集合」の仏教・キリスト教・神道の対談に出席しました。スタッフがとても楽しんでおり、高校生も参加していました。残念に思ったのは、今後の内容の精査が必要なのではないかというところでした。

議長 ありがとうございます。市民が中心となって、地域の方が講師になり、生涯学び、活躍できる環境を整える事例であると思います。

議長 { ここで、これまでのご意見等から分類しますと、  
・「大学生」・・・大学が展開する地域公開講座 オープンカレッジという側面と、大学生と地域活動を結びつける方策という側面  
・「現役世代」・・・50代前後のセカンドライフを考える世代、就労世代の地域の過ごし方、退職前のきっかけづくり  
・「高齢者」・・・何か地域の居場所を見つけたい、活動のきっかけがほしいと考えている人たち

の3つに分かれると思います。

これから、審議の進め方として、開催案内にもありましたように、3つのグループに分かれて、それぞれの社会参加をしていくために、「どのような課題があるか」「どのような調査をしたいか」「どのような学びや仕組みが必要か」について話し合っただき、各グループより発表していただきたいと思います。

進行役は、学識の先生方で分担し、

・「大学生」については、西本委員に

・「現役世代」については副議長に

・「高齢者」については、私、伊藤

がファシリテーターになって、進めていただきたいと思います。ファシリテーターの方は、よろしく願いいたします。

14時50分までグループワークをしていただき、発表を1グループ10分ずつしていただきたいと思います。付箋に記入していただき、模造紙に貼り付ける方式です。

では、グループに分かれてお願いします。持続可能であることを踏まえ、行政の方々も、どこかのグループに入っただき、助言などがありましたらよろしくをお願いします。

委員 (グループワーク)

議長 では、グループごとに発表をお願いします。

#### 大学生

委員 まず、大学グループの課題として、対象を大学生に絞りましたがそれでも難しいということが上がりました。そこで、ボランティア活動等の地域で活動するところとそこでその点を見ていこうと考えています。

大学生の中で、西宮市外から通学している学生というのは、大学で講義を受けた後そのまま地元に戻る人が多いと思います。

調査についてですが、今度大学交流センターに行くということがありますので、そこでお話を伺おうと思っております。例えば、把握されている NPO の方や大学生が主体となっているボランティアサークル等の方を、行政の方につないでいただくかなと思っております。そこで、活動目的があって動いているのか、地域のニーズ等の調査をしてはどうだろうかと思っています。

NPO は、目的が地域に根差しているかどうかは別個になりますので、地域に根差してそこで活動したいという NPO なのか、例えば海外に目が向いているようなまったく目的が違う NPO なのかも、今後見ていく必要があると思います。

それから学びのしくみの話では、今とも関連していきますが、大学生は大学学内での教育がありますので、そこに各大学に要望はできても、しくみを変えてくださいというわけにはいかないの、そこは難しいのかなと思っております。

また、大学生だともう手遅れだということもあります。今回の話とは違うと思いますが、やはり小中学生からの教育と関連して大学生までいければなと思っております。

ただ、佐藤先生からもお話伺ったのですが、おそらく我々の世代よりは今の学生たちは、地域ボランティア活動等への抵抗がないのかもしれない。私たちが把握しきれないだけかもしれませんが、先程のサークル等を介して、大学生の活動の現状を見させていただいて、引っ張っていければなと思っております。

議長 ありがとうございます。

#### 現役世代

副議長 「どのような課題があるか」については、働きながら学べる環境やキャリア教育の充実があがりましたが、現実に西宮市に求められることとしては、定住場所の確保、誰もが集まれる場所の確保が必要だという話になりました。また、社会教育と学校教育の連携という視点から考えると、学校運営協議会の充実が今後大事になってくると思います。ほかにも、ひとり親世帯の増加、現役世代との交流の場の不足、地域防災組織と学校の連携不足といった課題があがりました。

「どのような調査をしたいか」については、市民意識調査が一番現実的ではないかと考えます。その中で、地域活動への参加状況、学習要求がどれほどあるのか、学習費用がどれくらいかかっているか、子育て世帯の社会参画要求はあるのか、地域で教えたいことはあるかということ調べる必要があるかと思っております。この調査以外にも、NPO に対する調査をするよいいのではないかという意見もありました。

「どのような仕組みや学びが必要か」については、個別の学習相談や学習カウンセラーの配置、学習費用の助成、子育て世帯に対しては託児施設の充実、学習仲間の集う場の確保が必要だと思っております。持続性という点でいうならば、大人が大学生に学ぶ場を作ってもよいいのではないかという意見や、NPO に学習マネジメ

ントの方法などを学ぶ場を作るのも大事だという意見もありました。更に、単身世帯向けの学習環境、社会参画の場を確保することが重要だろうということでした。

議長 ありがとうございます。

高齢者

議長 西宮市は「宮水学園」が大変盛んで、月1回の教養講座と年間20回の選択講座を併せて、65歳上の方で、毎年2,500人以上の申し込みがあるそうです。65歳以上の人口が約11万8千人おられるなかで、そのうちの2,500人が多いのか少ないのか分かりませんが。

宮水学園で学ばれた方の一部は、宮水ジュニア事業に関わったり、小学校で「昔遊び」の指導をしたり、あるいは展覧会等で発表したりと、何らかの学びの（地域）還元を一部の方はされていますが、多くは自分の学びを深めてそれを閉じられてしまっています。それが悪いわけではないのですが、せっかく学んだことを生かすよう、次のステップに進む手段、いろいろな選択肢が多様に用意されていることが大事ですが、そこをもう少し充実させていくことが課題だということが確認されました。ただ、実際の運営上はいろいろ難しいことがあるようでした。「どのような調査をしたいか」ということについては、宮水学園の受講者を対象に調査をすることが検討されているようなので、どんなことを聞きたいか、どんなスタイルで調査できるか、ということを煮詰めながら、調査内容についても決めていきたいと思えます。

「どのような仕組みが必要か」については、今の課題と実際に調査した後で、考えたほうがいいのか、ということで保留にしております。

議長 では、それぞれの発表に対して、ご質問・ご意見等がありますか。

（なし）

委員 それでは、本日のご意見を参考に、今後の審議について、方向性を整理していきたいと思えます。

議長 他にご意見はございませんでしょうか。

続いて、報告事項第1号の「平成30年度阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会（総会）の報告」をお願いいたします。

事務局 7月25日に平成30年度阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会（総会）が開催され、議長・副議長・事務局が出席しました。

役員会では、平成29年度の事業報告・会計報告等のほか、平成30年度の予算案及び事業計画案について承認されました。

11月には、研修会を予定しており、11月29日（木）に、中央公民館の集会室で、副議長により、「地域で市民性をはぐくむ～シチズンシップ学習と実践について～」をご講演いただきます。

芦屋市・尼崎市の社会教育委員も参加し、本市で開催されますので、委員の皆様もご出席いただきますようよろしくお願いいたします。研修会終了後には、近隣で懇親会を予定しております。

詳しい開催案内等につきましては、別途ご案内いたします。

議長 ありがとうございます。他に報告等がございますか。

- 事務局 地域学習推進課より、平成29年度公民館活動実践集について説明いたします。お手元の、冊子の表紙を1枚めくっていただきますと、はしがきがございます。公民館でどのような活動が行われたのかを記載しているもので、昭和55年度より毎年刊行しています。
- 次のページには目次がございますが、主催事業、活動推進員会事業、公民館活用促進プロジェクトに分けて記載しています。
- その中で、活動推進員会事業につきましては、154ページ、155ページに記載がございます。上の方に、課題ごとの回数、人数などが書かれています。
- このうち「地域」につきましては、「必須課題」となっておりまして、必ず実施することとしている講座で、実施回数は、必須課題で5回、それ以外の講座(選択課題)を合わせて、年間17回以上の講座を開催することとしています。
- 必須課題である地域課題とは、まちづくり・地域文化・郷土史・防災・防犯などのことです。各公民館によって状況が異なり、17講座実施しているところから、地域団体等との共催が多いとはいえ、60講座近く実施しているところまであります。説明は以上でございます。
- 議長 ありがとうございます。他に、ご意見がないようでしたら、本日の議事は終了させていただきます。
- それでは、これもちまして社会教育委員会議を終了させていただきます。

以 上